



塩山ころ柿の里と武田家ゆかいの地ウォーク

2019.11.24 11km 短縮 9km

参加者の皆様へ

- ・ 無断で単独行動をとらないようにしてください。
- ・ 主催者は、歩行中の事故について傷害保険に加入している他は応急措置以外の責任は負いません。
- ・ スタート前には必ずトイレを済ませてください。
- ・ 原則として右側通行を遵守し、2列以内で歩きましょう。
- ・ 一般道を横切の場合は、役員の指示に従ってください。
- ・ 体調が悪くなったら遠慮せずに役員に連絡願います。

コース

往路	富士宮駅 == 甲府南IC == 釈迦堂PA(WC) == 勝沼IC == 向嶽寺(WC・体操)
	7:30 8:55~9:05 9:20~9:50
ウォーク	向嶽寺(スタート)・・・白髭神社・・・常泉寺(WC)・・・岩波農園・・・恵林寺(昼食・WC)
	9:50 10:15 10:30~50 11:10~40 11:45~12:45
	ふれあいの森総合公園(WC)・・・甘草屋敷(見学・ゴール・WC)
	13:15~25 14:30~15:00
	* 短縮: 恵林寺からバスでふれあいの森公園に移動
復路	甘草屋敷 == 勝沼ぶどうの丘(WC) == 勝沼IC == 甲府南IC == 富士宮駅
	15:00 15:15~45 16:15 17:30

向嶽寺

臨済宗向嶽寺派の大本山で、山号は塩山。非公開寺院のため建物内部や庭園は原則的に拝観不可である。国宝「絹本着色達磨図」など多くの文化財を所蔵する。富嶽(富士山)へ向かうという名前の由来を持つ。

常泉寺

旧秩父往還の面影が残る武士原地区にある真宗大谷派の寺院。往古に聖徳太子が富士山に飛来した折、帰路にお休みに立ち寄られたという伝説がある。境内には太子橋、腰掛け石といわれる旧跡があり、聖徳太子像を安置する太子堂もある。文久2年(1862)~明治5年(1872)まで寺子屋が開かれていた。

コースの概要

向嶽寺(こうがくじ)前でバスを降り、境内でトイレと体操を済ませてウォークをスタートしますが、少々境内散策の時間をとります。スタート後、静かな里道をしばらく進みます。農家の軒先にはころ柿が玉すだれのように吊るされ、家の敷地内には、柿やザクロの木などの果樹が植えられています。甲州八珍果(ブドウ、ナシ、モモ、カキ、クリ、リンゴ、ザクロ、クルミまたはギンナン)と言って、武田信玄が奨励したとか、柳沢吉保(よしやす)が奨めたとか言われているそうです。甲州街道の裏道である旧秩父往還を歩くと、長い土塀や立派な門構えのある家が続き、その先に常泉寺があります。この寺には聖徳太子伝説があり、太子堂には聖徳太子像が安置されています。休憩後、引き続き里道を進み、岩波農園に到着、ここがころ柿の見学タイムです。見事な玉すだれを楽しみましょう。岩波農園から目と鼻の先に信玄の菩提寺である恵林寺(えりんじ)があり、ここで昼食です。興味のある方は昼食時間に有料部分(拝観料 300円・宝物館 500円、共通券 700円)を見学したり、近くにある花の寺・放光寺に行ってみたりするのもいいでしょう。ただし、放光寺までは700mほどありますので集合時間に遅れないようにしてください。

昼食後は小屋敷堰(おやしきせぎ)という水路沿いの道をふれあいの森総合公園まで歩きます。道筋に登録有形文化財に指定されている立派な建物を見ることができます。旧武藤酒造主屋です。ふれあいの森総合公園の手前でフルーツラインを歩きますが、ややきつい登り坂です。足に不安のある方は恵林寺からふれあいの森総合公園までバスで移動していただけます。公園でトイレ休憩後は緩やかな下り坂を塩山駅前の甘草屋敷まで歩いてゴールになります。甘草屋敷の入館料は参加費に含まれています。

今日のコースの分岐点には「ころ柿の里ウォーキング・信玄の里コース」という表示板があります。間が空いてしまった時にはこの道標を見て進んでください。

帰路で勝沼ぶどうの丘に立ち寄りします。ここで土産も調達できます。

緊急時連絡

市川 文雄 090-3835-5203
井上とし子 090-2136-7308



恵林寺

1330年、夢窓国師(むそうこくし)によって開かれ、武田信玄が菩提寺と定めた臨済宗妙心寺派の古刹である。黒門を入り参道を上がると四脚門(赤門)が現れる。この赤門は織田信長により全山焼かれた後、徳川家康によって再建されたもので、1606年の棟札が掲げられ国の重要文化財に指定されている。三つの門を潜ると、正面に開山堂があり、堂内には、夢窓国師、快川(かいせん)和尚、末宗(まつしゅう)和尚の像が安置されている。快川和尚は天正10年(1582年)に織田氏による焼き討ちに会い恵林寺において焼死したとき、「安禅不必須山水 心頭滅却火自涼」(安禅必ずしも山水を須(もち)ひず 心頭滅却せば火も自づと涼し)の辞世を残したといわれている。

甘草屋敷

高野家は江戸時代初期頃より薬草である甘草の栽培を始め、八代将軍徳川吉宗治世の享保5年(1720年)、徳川幕府の採薬師であった丹羽正伯により同屋敷内の甘草を検分され、その結果幕府御用として栽培と管理が命ぜられた。一反十九歩の甘草園は年貢諸役を免除され、その後同家が栽培する甘草は、幕府官営の小石川御薬園で栽培するための補給源となり、また薬種として幕府へ上納を行った。これらの経緯により高野家は古くから「甘草屋敷」と呼ばれてきた。高野家はこの地で長百姓(おさびやくしやう)を務めた家柄で、代々「伊兵衛」を名乗り、幕末には名主として苗字帯刀が許されていた。高野家住宅の主屋は切妻屋根の前面上部に2段の突き上げ屋根を設けた甲州民家と呼ばれる、この地方特有の建築である。江戸時代後期の建築で、蔵などの付属建物や宅地も含め、重要文化財に指定されている。

次回申込(バス内・昼食場所で)

大井川本線19駅ウォーク

第2ステージ

- ☆期日 12月15日(日)
- ☆集合 富士宮駅南口 7:00
- ☆参加費 4,500円
- ☆切 12月10日(火)